

授業科目名	中東と国際社会	単位数	2
担当教員名	佐々木 伸	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
<p>「学位授与の方針」との関係 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係の専門的知識を生かし、狭い専門領域を超えて統合しようとする意志を持つこと。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>(1) 世界のエネルギー資源の宝庫である中東でなぜ紛争が多発し、不安定な状況が続くのか、その原因や構造を探求する。</p> <p>(2) 紛争の背景である歴史、政治、宗教、民族、文化などの理解を深める。</p> <p>(3) 中東への大国の影響力行使について考察し、平和と安定への道を展望する。</p> <p>(4) 日本と中東との関わり、並びに日本の国際貢献と共生の在り方について考える。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>世界の「紛争の巣」ともいえる中東情勢について、列強支配の歴史、政治、ユダヤ、キリスト、イスラムという宗教を含め、民族、文化、言語などの基本を多角的なアプローチで把握、分析。紛争の根本的な要因であるパレスチナ紛争や、イスラム過激派の興亡、ペルシャ湾の緊張など対立と分断の現況を研究、平和実現の展望を探り、中東と世界、そして日本との共生の可能性を考察する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：中東を知る—中東の基礎知識（3大宗教、民族、言語、社会、文化など）</p> <p>第2回：パレスチナ紛争の本質と歴史的背景—アラブとイスラエルの対立</p> <p>第3回：中東紛争の拡大—植民地主義と民族主義</p> <p>第4回：和平への動きと米国の調停—エジプトの単独和平、オスロ合意</p> <p>第5回：トランプ政権の登場とエルサレムへの米大使館移転、新和平提案</p> <p>第6回：イスラム急進主義と1979年の4大事件（イラン革命）</p> <p>第7回：アルカイダと9・11—国際テロの背景</p> <p>第8回：アフガニスタン戦争と米国のイラク侵攻</p> <p>第9回：湾岸の諸戦争—イラン・イラク戦争、湾岸戦争</p> <p>第10回：イランと米国の対立 ペルシャ湾の緊張</p> <p>第11回：アラブの春の衝撃</p> <p>第12回：シリア内戦とロシアの介入</p> <p>第13回：イスラム国（IS）の興亡</p> <p>第14回：紛争の処方箋と和平への展望</p> <p>第15回：中東と日本、国際貢献と共生の道</p> <p>定期試験</p>			

スクーリングでの学修内容

主に授業計画に記載したテーマについて横断的に学ぶ。テキストについては、教科書とは別にダウンロード教材やレジュメを事前配布し、それに基づいて講義し、質疑応答することで、授業の理解を深め、問題意識を高める。スクーリング前に教材を必ず読んでくること。

教科書

- (1) 佐々木 伸 ダウンロード教科書
- (2) 鹿島 正裕 (2013) 『増補新版 中東政治入門 ～アラブの春とその背景』 第三書館
- (3) 奈良本 英佑 (2017) 『14歳からのパレスチナ』 合同出版

参考文献

- (1) 池内 恵 (2018) 『シーア派とスンニ派』 新潮選書
- (2) 国枝 昌樹 (2015) 「イスラム国の正体」 朝日新聞出版

学生に対する評価

スクーリング評価 (25%)、レポート評価 (25%)、科目修得試験 (50%) を総合して評価する。